

科目名	英語文学概論Ⅰ		担当教員	子安 恵子	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1ELI101
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	<p>到達目標：英語で書かれた文学を学ぶ中で、英米文学の作品から何をどのように読み取ればよいかなど、英語による表現力への理解を深める。また、中学校および高等学校における外国語科の授業に生かせるよう、映像化された文学作品の映像からも、その国や地域の文化についての知識や理解を増していく。</p> <p>テーマ：英米文学の作品において使用されている様々な英語表現を理解した上で、各作品で描かれている国や地域の文化について理解し、英語で書かれた代表的な文学について理解する。</p>				
授業の概要	英米文学の各時代の作家による英語で書かれた代表的な文学作品をとりあげ、文学作品における英語表現を学ぶ。そして作品の中に見られる多様な文化を、映像も参考にして読みとっていく。英米文学の作家の作品を読んでBook Reportを書く。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション：授業の概略、授業計画、成績評価方法、事前・事後学修などの説明。
第2回	Workbook p.1-2 英文学とは ≪エリザベス朝≫
第3回	Workbook p.3-5 Shakespeare 創作Ⅰ期、創作Ⅱ期の作品
第4回	Workbook p.5-7 Shakespeare 創作Ⅲ期、創作Ⅳ期の作品
第5回	Workbook p.8-9 ≪王政復古≫ Milton, Bunyan ≪新古典主義≫ Defoe, Swift
第6回	Workbook p.10-11 ≪ロマン主義≫ Austin, Wordsworth, Coleridge
第7回	Workbook p.12 ≪ヴィクトリア朝≫ Dickens
第8回	Workbook p.13 Bronte, Lewis Carroll
第9回	Workbook p.14 ≪20世紀≫ Eliot, Tolkien
第10回	Workbook p.15-17 アメリカ文学の定義 ≪植民地時代≫ Benjamin Franklin
第11回	Workbook p.18 ≪ロマン主義時代≫ Poe 超絶主義：Emerson, Hawthorne
第12回	Workbook p.19-20 Melville ≪リアリズム時代≫ 地方主義文学：Mark Twain / 短編 O. Henry
第13回	Workbook p.21-22 失われた世代：Fitzgerald, Hemingway, Faulkner, Steinbeck
第14回	Workbook p.23 ≪第2次世界大戦後≫ Salinger Book Report 提出

第15回	学術到達度の確認試験と解説および総括
------	--------------------

事前学修	1時間	講義30時間で2単位のため60時間の自学自習時間が必要とされる。 1時間：授業計画にある作家と作品の概略を予習し、理解してくる。
事後学修	3時間	3-6時間：講義内容やWorkbook、プリントなどを整理し、まとめ直して復習する。そして図書館などを活用して、さらに詳しく研究する。また自分が取り上げた作品を読み、Book Reportを作成・提出する。
フィードバックの方法	毎回授業の始めおよび終わりに質疑応答の時間を設ける。	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	20%	Book Report
上記以外の試験・平常点評価	80%	確認試験

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Workbook	子安恵子	Well On	なし	¥200
参考資料	Workbook ¥200 (授業の第1回および第2回に対面販売)			

科目名	英語文学概論Ⅱ		担当教員	有為楠 香	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1ELI402
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	「到達目標」：イギリスの歴史と文化を踏まえながら、そこで育まれた文学を鑑賞し、理解する。またイギリス文学の特性を理解することによって、人間が生きる上で文学が有する意味、あるいは社会の動向と文学の相関性といった普遍的問題について考察し、論じあうことができる。「テーマ」：イギリス文学を歴史的文化的背景と重ねて読み解く。				
授業の概要	中世から20世紀に至るまでのイギリス文学の歴史的流れを、社会思潮や国家の歴史的出来事と関連させながら講義する。詩・演劇・散文・小説の各ジャンルにおいて、優れた作者や作品を取り上げて、実際に作品の一部分を読み、味わいながらの授業となる。受講者も随時、作品鑑賞の体験を課せられる。				

授業計画	
第1回	授業概要説明：イギリスの歴史と文学、4つの地域の特性
第2回	中世のイギリス文学： チョーサーの物語、アーサー王伝説
第3回	16世紀のイギリス文学： エリザベス朝演劇とシェイクスピア
第4回	17世紀のイギリス文学：ピューリタニズムの詩人ミルトンvs.ダンら形而上学派の詩人たち
第5回	18世紀の詩： ボウプ・ドライデンら古典派の詩人vs.神秘主義者ブレイク
第6回	18世紀の散文： 産業の発達とジャーナリズムの成立、アディソン、スウィフトらの活躍
第7回	18世紀の小説： 小説の誕生、デフォー、リチャードソン、フィールディング他
第8回	19世紀の詩： ロマン主義、ワーズワース、コールリッジ、バイロンの活躍
第9回	19世紀の小説（1）： スコットの歴史小説とオースティンの写実的家庭小説
第10回	19世紀の小説（2）： 小説の隆盛、ディケンズ、サッカレー、ブロンテ姉妹らの活躍、移動図書館の役割
第11回	20世紀の詩と演劇： アイルランド文芸復興運動、イエイツ、ワイルド、ショーの活躍
第12回	20世紀の小説（1）： 大戦と文学、女性の社会進出、ハーディ、ロレンスの小説世界
第13回	20世紀の小説（2）： モダニズムの隆盛、ジョイス、ウルフのモダニズム文学、意識の流れ
第14回	20世紀の小説（3）： 第二次大戦と文学、チャーチル、オーウェル、イシグロ
第15回	授業全体の総括と復習テスト

事前学修	2時間	指定された課題をこなすこと。授業前に指定された教科書のページを読んでおき、作家と作品、それらが発表された年代のイギリスの情勢について理解しておくこと。
事後学修	2時間	授業で配布されたプリントを整理し、自分の力でまとめなおして復習すること。図書館などを使い、自分で文学に関する資料を探すこと。
フィードバックの方法	復習テストの後、授業内に一部の解説を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	30%	第10回終了後に提出。授業で扱った文学作品と発表された時代との関わりを論じる能力を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	70%	第15回での確認試験。授業で扱った英文学に関わる事項と、指定テーマで英文学を論じる小論文で評価する。

定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶイギリス文学史	神山妙子	ミネルヴァ書房	978-4-623-01873-4	¥2,800+税
参考資料	授業中にプリントで配布する。			

科目名	英語文学概論Ⅲ		担当教員	子安 恵子	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	<p>到達目標：米文学の歴史において、米文学の作家と英語で書かれた文学作品を学ぶ。さらに各地域の文化を理解し、作家や作品が及ぼした影響について考察する。中学校および高等学校における外国語科の授業に生かすことができるよう学ぶ。</p> <p>テーマ：米文学の作品において使用されている様々な英語表現を理解した上で、各作品で描かれている地域の文化を理解し、代表的な作家と作品について理解する。</p>				
授業の概要	<p>アメリカ合衆国の歴史と文学とを重ね合わせて米文学史の流れをつかんだ上で、代表的な作品にできるだけ多く触れていく。文学作品における英語表現を学ぶとともに、作品の中に見られる多様な文化も読みとっていく。各自、米文学の作家の作品を読んでBook Reportを書く。</p>				

授業計画	
第1回	オリエンテーション：授業の概略、授業計画、成績評価方法、事前・事後学修などの説明
第2回	Workbook 巻頭ページ アメリカ文学の定義、特質について
第3回	Workbook p.1 - 2 《植民地時代》 フランクリン 独立戦争時代 ブラウン
第4回	Workbook p.2 - 3 《ロマンティシズム時代》 アーヴィング、ポオ
第5回	Workbook p.4 - 5 超絶主義：エマソン、ホーソン
第6回	Workbook p.5 - 6 アメリカン・ルネサンス：メルヴィル、ホイットマン
第7回	Workbook p.6 - 8 《リアリズム》 西部の文学：トウェイン、小説の発達：ジェームズ
第8回	Workbook p.8 - 9 短編小説：O. ヘンリー、自然主義：クレイン、ノリス、ロンドン
第9回	Workbook p.10 - 11 自然主義：ドレイザー、中西部の文学：アンダーソン
第10回	Workbook p.12 - 13 失われた世代：フィッツジェラルド、ヘミングウェイ
第11回	Workbook p.14 - 15 南部文学：フォークナー、カリフォルニアの文学：スタインベック
第12回	Workbook p.99 - 107 演劇：オニール
第13回	Workbook p.17 《第二次世界大戦後》 ユダヤ系・南部・都会派の文学など
第14回	Workbook p.18 その他の作家、演劇、詩 Book Report 提出

第15回	学習到達度の確認試験と解説および総括
------	--------------------

事前学修	講義30時間で2単位のため60時間の自学自習時間が必要とされる。 1時間：授業計画で学ぶ作家と作品の概略を予習し、理解してくる。
事後学修	3-6時間：講義内容やWorkbook、プリントなどを整理し、まとめ直して復習する。そして図書館などを活用して、さらに詳しく研究する。また自分が取り上げた作品を読み、Book Reportを作成する。
フィードバックの方法	毎回授業の始めおよび終わりに質疑応答の時間を設ける。

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	20%	Book Report
上記以外の試験・平常点評価	80%	確認試験

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Workbook	子安恵子	Well On	なし	¥200

参考資料	Workbook ¥200 (第1回目と第2回目の授業で対面販売)
------	-----------------------------------

科目名	英語文学概論Ⅳ		担当教員	有為楠 香	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	<p>「到達目標」：近現代に書かれた英語の短編小説を読む。たとえ日本語翻訳で読んで知っている小説だとしても、母国語ではない言語で読みながら新たに内容理解に取り組む、あるいは本来はこのような英語表現で書かれていたと把握する、その作業の繰り返しにより、文学鑑賞の新たな知見を得る。また感想・疑問点をまとめ、それを他の学生と共有・話し合いをすることで、発表と意見交換の能力が得られる。</p> <p>「テーマ」：英米の短編小説を理解する。</p>				
授業の概要	主に20-21世紀に書かれたアメリカ・イギリスの短編小説を講読する。教材はプリントの形で配布される。授業で取り扱う箇所は事前に指定されるため、必ず読んでおく。指定した学生からの感想・疑問点などを皆で共有し、話し合い、理解に努める。				

授業計画	
第1回	授業概要説明ーアメリカ・イギリスの20世紀の歴史 ウィリアム・サローヤン『アメリカ旅行者への田舎からの古くさい忠告』：口伝のエピソードが語るものー現地での歴史を持たない移民の物語。
第2回	ウィリアム・サローヤン『アメリカ旅行者への田舎からの古くさい忠告』(2)：アメリカ合衆国へのアルメニア人移民の歴史。
第3回	ウィリアム・サローヤン『アメリカ旅行者への田舎からの古くさい忠告』(3)：登場人物の嘘ー賢明さとは嘘を見抜くことか、それとも見抜いたことを誰にも明かさないことか？
第4回	サマセット・モーム『アリとキリギリス』(1)：1930年代のイギリス社会ー第一次世界大戦と戦間期の歴史。
第5回	サマセット・モーム『アリとキリギリス』(2)："I never lent him fifty pounds without feeling that I was in his debt."ー金銭の貸し借りと友情の重みについて
第6回	サマセット・モーム『アリとキリギリス』(3)：人物描写の読み取り<家族関係>ー対照的な兄弟のキャラクターのどこに差異があるか、あるいは共通点はどこか？
第7回	サマセット・モーム『アリとキリギリス』(4)：人物描写の読み取り<職業>ー2人のビジネスマンたちの運命。
第8回	ロアルド・ダール『女主人』(1)：人物描写の読み取り<職業・その2>ー第二次世界大戦後、若者の職業として激増したビジネスマンと、それを支える商業主義社会の論理。
第9回	ロアルド・ダール『女主人』(2)：会話の駆け引きから人物の性格描写を読み取るー二人の登場人物の、あらゆる面に対照的に設定された背景を読み解く。
第10回	ロアルド・ダール『女主人』(3)：クライマックスへーサスペンスが高まるにつれ、周到に張り巡らされた伏線を振り返る。そして幕切れの文章は何を意味するのか？
第11回	ロアルド・ダール『女主人』(4)：外見と中身の果てしない落差ーホラー小説の主人公に必須の特徴と、童話の現代的アレンジ。
第12回	ロアルド・ダール『女主人』(5)：著名な事件がもたらす世界的影響ー同一事件を扱った他作品との比較
第13回	サキ『ローラ』(1)：20世紀初頭のイギリス上流社会と、サキの作品に見る風刺精神
第14回	サキ『ローラ』(2)：エドワード朝と第一次世界大戦ー「トリックスター」というキャラクター類型の解釈。
第15回	サキ『ローラ』(3)：かわうそとヌビア人ー文章から読み解くイギリス上流階級の生活と、虐げられたものたちの反逆

事前学修	事前に配布されるプリントで予習する。英語で小説を読む授業のため、辞書を引き、内容を理解することは必須である。毎週、指定された学生には感想・疑問点をまとめたプリント作成と、授業中の発表を課す。
事後学修	授業中に紹介された作品発表時の出来事や作者についての解説、また話し合われた感想・疑問点を、自分のノートにまとめておく。
フィードバックの方法	授業課題として学生が作成してきたプリントに対し、授業内でコメントと評価を与える。図書館などを使い、自分で文学に関する資

料を探すこと。

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
レポート	70%	第15回終了後、授業内で扱った作品について、発表時期・内容・文学的読解の面から論じる能力を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業内に発表するための課題として作成した、小説の疑問点・感想を記したプリントの内容を評価する。
定期試験	0%	実施しない
補足事項	英語の小説を読む授業なので、辞書を必要とする。電子・紙どちらでも良いので、辞書を必ず持参すること。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
プリントを配布	なし	なし	なし	なし
参考資料	授業資料はすべてプリントで配布する。			